

(経済基本構造統計課 仮訳)

国際連合経済社会理事会

第48回統計委員会

2017年3月7～10日

暫定アジェンダ3 m (E/CN.3/2017/1)

ディスカッション項目

「ビジネスレジスターに関するヴィースバーデングループ 報告書」
事務総長ノート

経済社会理事会決定(2016/220)に基づき、事務総長は「ビジネスレジスターに関するヴィースバーデングループ報告書」を送付する。本レポートは2016年11月に東京で開催された第25回会合で示された本グループの最近の進捗について要約するものである。このレポートではヴィースバーデングループが2015年のUNECEに承認されたSBR(統計ビジネスレジスター)ガイドラインを将来的に開発途上国に関する評価及び国際的な照会を通して検討の上、国際ガイドラインとする旨、提案されている。統計委員会はこれらのガイドラインに係る提案及びヴィースバーデングループの進捗について、その付託事項(terms of reference)も含めてコメントを求められる。

I インTRODクシヨン

1 ビジネスレジスターに関するヴィースバーデングループは国連統計委員会傘下のシティグループの一つである。国連シティグループの精神として各参加者の積極的な貢献に支えられ、SBRの開発・維持・利用に関する知見を共有する場を提供する。そこではSBRの利用に関する概念的及び方法論的な課題やその構築に関する好事例の蓄積等について検討される。また、その業務においてデータの収集、統合、統計の作成及び公開など、SBRの役割の発展に係る議論を通して、経済構造統計に資するより統合されたアプローチを支援する。

2 ヴィースバーデングループは1986年に「ビジネスサーベイフレームに関する国際円卓会議」という名称で設立され、最初の会合は同年にカナダのオタワで開催された。その後、2007年にドイツのヴィースバーデンで行われた第20回会合後、「ビジネスレジスターに関するヴィースバーデングループ」と名称を変更した。名称変更は他の国連シティグループのネーミング方法に倣い、併せて経済統計の作成に向けたバックボーンを提供、統計情報のソースを考慮することなど、その自らの役割も変更された。

3 本レポートの第2章において、第25回ヴィースバーデングループ会合の主な成果が記載されている。第3章ではUNECE版SBRガイドラインを国際的な承認 (endorse) にするためのレビューや所要の修正が提案され、第4章ではヴィースバーデングループの付託事項の改定に関する主要なポイントが提供されている。「議論のポイント」については第5章に記載されている。

II 第25回ヴィースバーデングループ会合の報告

A インTRODクシヨン

4 第25回ビジネスレジスターに関するヴィースバーデングループ会合は2016年11月8～11日までの日程で総務省統計局が主催国となって開催された。会合には国連アジア太平洋統計研修所 (UNSIAP) と国連統計部 (UNSD) が総務省統計局の協力の下で開催した開発途上国のためのビジネスレジスターに関するワークショップへの参加者も含め、41か国・6国際機関から合計77名が参加した。7つの一般セッション及び1つの特別セッションから構成される本会合の期間中、会合に参加できない世界中の関係者のためにライブストリーミングを実施した。

B セッション1：カントリープログレスレポート

5 ヴィースバーデングループ会合では最初に各国におけるビジネスレジスターのフレームワークに関する最近の進捗をレビューすることが伝統になっている。本セッションは日本が議長となり、各国の進捗報告が行われた。事前に53か国等からレポートが提出され、そのうち、実際に33か国等から発表があった。

6 カントリープログレスレポートの様式 (テンプレート) は、4項目で構成されている。(a)最初の項目は自国のSBRに関する一般的な情報提供、(b)二つ目は過去の重要な進捗の概要説明、(c)三つ目は今後の計画、(d)四つ目はSBRの改良・維持・利用に関する今後の挑戦である。第24回会合では各国が口頭で全てのレポートを発表していたが、今回の会合からは他のセッションでの時間を有効活用するため、「今後の挑戦」のみを各国が発表することとした。

7 本セッションでは議長がそのサマリーにおいて、カントリープログレスレポートのほぼ70%はヨーロッパ地域からのものであり、より優れた地域バランスを達成するために他の地域のカバレッジを増加させる必要性を示唆した。議長はまた、行政記録の活用の増加、企業・企業グループなどの統計単位のSBRへの導入、地理情報の効果的な活用、方法論的課題、品質に関する課題、ビジネスデモグラフィ、テクノロジーに関する課題などの現在若しくは今後の課題についてもリストアップした。

8 本セッションでは、現在若しくは今後、導入予定のSBRの構築、維持、活用に関するプロジェクトについて、世界中のビジネスレジスターの専門家の間で最新情報を交換する重要な機会が提供された。

C セッション2：ビジネスレジスターの役割

9 二番目のセッションはEurostatが議長となり、ビジネス統計の作成に資するという従来からのSBRの役割を超えた新たな知見、開発に着目された。以下の事項を含むいくつかの要素がSBRの新たな利用方法、役割を推進することになる旨の合意(agreeed)があった。その中でも以下の事項について言及された。

- (a) 効率化の追求の必要性
- (b) グローバリゼーションの影響に関する調査・理解の必要性
- (c) 民間情報産業からの挑戦
- (d) 新たな技術開発の可能性及びビッグデータの利用

10 SBRの新たな役割について、主な方向性がいくつか示された。比較的、新しいSBRの近年の役割はビジネス統計に資する唯一の統計調査フレーム(バックボーン)であった。より成熟したSBRの場合は、事業所系の統計家などの伝統的なユーザーにフレームを提供する役割から、新たなユーザー向けに非統計目的などの新サービスを提供するサービスプロバイダーになりつつある。分析を目的とした情報源としてのSBRの役割についても示された。多くの発表では社会、行政レジスターとの統合を含む、他のレジスターとの統合、複合的なシステムの創設について言及された。いくつかの発表では地理コーディングを使った開発及びウェブスクレイピングの技術に関する試行について強調されていた。

11 SBRをより効率的にし、多様なニーズ及び要望に対応可能とする観点から、パネラーと参加者による多くの発表と活発な対話型の議論により、SBRの現代化に資する多くの活動が示された。議論された多くの進捗については、今後、フォローアップに値するとともに、分析、関連したトレンドの反映、そして好事例に関するガイダンスの提供を目的として国際会合においてセッション化ができる可能性がある。

D セッション3：行政記録／機関／単位

12 多くの場合、ビジネスレジスターは税務当局などの行政記録に依存している。ここ数年来、ヴィースバーデングループはレジスターのオペレーションの改良に資する新たな情報源の利用可能性を追求し、行政記録の活用に関する新たなアイデアの重要性を認識してきた。本セッションは、行政記録の供給者とのどのような協力(レジスターにおける単位の適切な把握を含む。)がレジスターのカバレッジと品質の改良に資するかを確認することを目的として行われた。

13 本セッションは米国が議長となり、新たな行政記録の活用、既存情報源の改良若しくは異なる情報源の結合、既存情報源における新たな数値の利用、行政記録活用頻度の改善、新たな情報源若しくは情報源の改善に資する行政システムの現代化、行政情報源の活用を容易にするマッチング技術の改

良、レジスターにおいて単位（企業、ファーム、事業所等）を適切に識別するためのより優れた方法又はシステム、そして統計機関と他の機関におけるビジネスレジスターの開発に関する協力についての課題に着目された。

E セッション4：品質とカバレッジ

14 4番目のセッションでは、SBRの品質に関する管理、分析、報告方法に関する多様な事項が議論された。レジスターの管理に関する特定の事項若しくは一般的な戦略、統計プロセス、品質指標の導入について発表された。本セッションの議長はドイツが務めた。

15 品質に関するセッションはヴィースバーデングループにおける古典的なテーマであるが、時代の変化とともに品質に関する業務がどのように変化するかを明確に見通すものとなっている。品質に関する業務は着実な方法が求められる。現在、それは統計機関のレジスター部局に課せられた「宿題」(homework)として実施される見込みはほとんどないといえる。むしろ、ユーザー及びレジスターの情報源と密に関係した業務が必要となる。品質全体を指向した経済統計及び国民経済計算の観点から、品質に関する業務の本質は、より積極的な作業になりつつあり、場合によっては所要の調整も必要になる。

F セッション5：テクノロジー

16 本セッションは英国が議長を務め、6件の発表が行われた。本セッションにおける論文の基準は広く、SBRに関するあらゆる技術開発をカバーした。各論文は、マッチングのルールの見直しのための実証結果から、新たな技術に基づくレジスターシステムの再開発に至るまで、多様な内容を反映させたものであった。

17 新しいテーマの草分けは、“データレイク (data lake)”及び新たなレジスターシステムを構築するための非構造的なデータアプローチであった。オランダ及びスイスの論文では単体のレジスターコンピューターシステムから、中央レポジトリ（データ貯蔵庫）へのデータの蓄積、機能的なBRに資するサービスの範囲など、よりサービス指向のアプローチへの変化に関する興味深い進捗が示された。

18 行政記録のマッチングは、ユニーク識別キーを持たない国々において重要なものであることから、二つ目の議題とした。マッチングシステムの調整と見直しに関する結果が発表された。その他のレジスターの品質に関する継続的な課題は各情報の収録日時を記録 (time-stamping) することであり、正確な記録、過去情報の追跡が可能となるような取組について紹介された。さらに、オートコーディングに関する論文のほか、新たなユーザーインターフェイスを持った新たなデータ補完システムが紹介された。

19 今の時代はBR機能の拡充、優れたサービスの提供、レジスター統計の更なる利用を可能とするなど、ビジネスレジスターの技術能力が大きく変化する時代である。

G セッション6：ビジネスデモグラフィー及びビジネスレジスターからのデータ作成

20 SBRからのビジネスデモグラフィー統計及びその他のデータ作成については何度もヴィースバーデングループで議論されるテーマの一つになっている。これはレジスターベースの統計を作成する範

囲の拡大による統計作成プロセスにおけるレジスターの役割の変化、そして経済成長に関する政策議論に必要とされるビジネスデモグラフィーの妥当性という二つの大きな事実を反映している。

21 本セッションはOECDが議長を務め、国家統計機関から、その経験に基づき、レジスターからのビジネスデモグラフィー統計の作成、税関、人口、教育、保険、税務記録などの行政記録とレジスターのリンケージ、そして、統計調査、追加的なビジネスデモグラフィーの収集（例：事業主のプロファイリング）、若しくは関連するその他のビジネス統計（企業特性別貿易統計を含む）に関する成果が報告された。結局、それらの事項はSBRがビジネス統計を作成する統合システムのバックボーンとなるような新たな統計データシステムの実現に向かうということである。そのシステムは、作成コストの削減に加え、ユーザーの要望に対応する斬新なアプローチを展開するものである。この点において、データのマッチング、メタデータの調整、ユニーク識別キー、データの比較、一貫性は主な課題として議論された。

22 オーストリアからは、企業保有関係を決定するためのアルゴリズムに関するアプリケーションの利用という試みがその他の事項として示された。日本からは、経済センサスとレストランに関するウェブサイトから取得した情報をリンクさせ、企業の開業・廃業に関する詳細な統計を作成する斬新な試みが示された。メキシコからは、経済センサス間に事業所を地理的に紐付けるためのデータ収集及び開業・廃業に関する情報の更新（データ収集のフォローアップ、企業存続確認統計調査による。）にモバイルコンピューティング機器（デジタル地理情報と衛星画像イメージを含む。）が利用された旨の説明があった。

H セッション7：グローバリゼーション及びプロファイリング

23 工業化された各国では、経済のグローバル化が拡大している。そして、経済活動に占める巨大で複合的な多国籍企業（MNEs）の役割の拡大を適切に把握することが、統計家にとって多くの課題となっている。これらの課題を解決するため、多国籍企業をより一層把握し、理解する企業活動のプロファイリングなどの新たなアプローチが導入されるべきである。SBRは必要に応じてアップグレードされるべきである。そして、グローバリゼーションに関連した「企業グループ」、「企業」などの新たな統計単位を含むべきである。加えて、各国間でSBRに関する調整を図ることが必要である。SBRの機能、データ交換に関する互換性により、多国籍企業やその子会社の適切かつ一貫した情報を得ることができるようになる。

24 本セッションはフランスが議長を務め、二つの項目で構成された。一つは、プロファイリング活動であり、もう一つはグローバルな企業の識別及びグローバルグループレジスターである。プロファイリング活動において、各国統計機関から報告された取組、関連するその他の課題はプロファイリングを実施する上での各種ツールの完成度合いによって異なる。ある国家統計機関は、まず、プロファイリング対象となる企業の選定基準を決定する必要がある。また、別の国家統計機関においては、プロファイリングを開始する前に、内容や品質の向上を目的として、巨大で複雑な多国籍企業の構造的な情報をSBRに統合する必要がある。製造サービス提供者、商品取引、工場を持たない品目の生産、海外における棚卸という4つのタイプの国際的な活動に積極的に従事している単位を識別することで、システムが成熟し、多国籍企業のグローバルな経済活動に関する情報の更新につながる。

25 本セッションの後半では、世界的な取引主体識別コード（LEI）のイニシアチブについて議論された。これは、世界中の金融取引に携わる法人の特定を可能とするものである。このイニシアチブは、世界的なLEIや統制の構造を支援するために、金融安定委員会に勧告を求める形で2011年にG20によっ

て開始された。これにより、グローバルLEIシステム（GLEIS）の導入を支援するグローバルLEI基金（GLEIF）が設立され、企業や団体にLEIを発行する「ローカルオペレーティングユニット」（LOUs）の活用につながった。EurostatとUNSDは、GLEISを活用する一方で「ユーログループレジスター」（EGR）から得られる経験に基づき、「グローバルグループレジスター」（GGR）を作成するプロジェクトに取り組んでいる。GGRの設立・管理における主な課題は、機密性の懸念を考慮した上でのマイクロデータの共有であろう。

I 特別セッション：SBRに関するガイドラインのフォローアップ

26 UNECEのSBRに関するガイドラインの作成に関するタスクフォースの議長を務めたオーストリアから、2016年9月に各国統計機関にガイドラインの導入状況について質問票を配布した結果が報告された。質問票はヴィースバーデングループ及びBRに関する専門家グループメンバーに送られ、33か国から回答が得られた。（訳者注：33か国には日本も含まれている。）

27 2015年9月にガイドラインを公表してから1年しか経過していないが、同ガイドラインは広く認識されており、多くの統計部局のBR部門において活用されているということが、本調査票の回答から認識された。ガイドラインは研修目的、各国のSBRに関する国際的な推奨（Recommendations）への適合状況の分析、自国のレジスターの開発・評価に係る参考として活用されている。いくつかの国では、同ガイドラインを部分的に又は全体的に翻訳している。また、今回の回答により、ほぼ全ての国において、自国のBRを開発・改善するための取組が行われているということが分かった。特に、統計単位の範囲、行政記録情報の利用、バックボーンとしてのSBRの役割の強化、レジスターの品質向上についてである。同ガイドラインについては、今後、英語とロシア語以外の言語への翻訳、実践的で好事例となる事項のより一層の充実、特に未発達な統計システムにおける利用、そして、定期的な改定が期待されることが表明された。

III SBRのガイドライン

28 SBRガイドラインは2012年から2014年におけるCES（欧州統計家会議）における要請に基づいて準備されたものである。このUNECEガイドラインはSBRの構築及び維持に関する実践的なガイドラインや推奨事項を提供することで各国を支援することを狙いとする。そして2015年6月のCES総会にて議論された。会合では次の事項が提起された。(a) ガイドラインはSBRの維持・改良を行う国々にとって包括的かつ有用である。(b) ガイドラインは他の地域においても重要である旨認識された。(c) 今後の業務の一つとして、中央銀行などその他のデータ提供組織との協力体制がある。CESはUNECEガイドラインを2015年6月に承認（endorse）した上で、UNSC（国連統計委員会）によるグローバルレベルでのガイドラインの承認を得る動きを歓迎した。

29 CES総会に先立ち、2015年3月から4月にかけてガイドラインに関する電子メールでの照会が実施された。46か国・機関から回答（訳者注：46か国等には日本も含まれている。）があり、ガイドラインの承認の支援のみならず、今後のUNSCの承認を得るプロセスに資する有益なコメントもあった。全ての国連加盟国、特に統計システムが開発途上の地域からのコメントを得るためにグローバルな照会が必要とされる。ガイドラインのグローバルな評価及び修正を経てグローバルなガイドラインにすることについてはヴィースバーデングループのステアリンググループが国連統計部（UNSD）の支援を受けた上で行われるであろう。従って、ヴィースバーデングループは既存のUNECEに承認されたガイドラインを国連のSBRガイドラインにするため、2019年の第50回統計委員会に新ガイドラインを提出し、承認（endorse）を得ることを提案する。

IV TOR（付託事項）の改定案

30 「イントロダクション」に記述したとおり、ヴィースバーデングループではSBRの開発・維持・利用に関する知見を共有する場を提供する。グループでは国家統計機関におけるSBRの開発・維持・利用に資する有効な方策、好事例の改良及び導入を支援する。このセクションでは当グループの核となる目的について紹介する。改定版のヴィースバーデングループのTOR（付託事項）の全文は本レポートの「別添」に記載している。

31 本グループには次の目的がある。

- (a) SBRの利用の改善、維持に関する好事例の共有、推奨に関する機会の提供及び共同の取組の支援
- (b) 概念上の課題の議論、明確化及びSBRに係る新たな方法及び技術の開発支援
- (c) データ収集、結合及び公開に関する共通基盤の提供によるSBRの主要な役割の改善
- (d) 経済統計の作成に資する行政記録、他の統計レジスター、統計調査との結合データに関するSBRの役割についての議論及び改善
- (e) 国際比較統計へのニーズ拡大及び経済のグローバル化に即したSBRの対応方法の議論
- (f) SBRに関する国際的な勧告や好事例の導入の支援

32 ヴィースバーデングループでは経済統計に直接的、または間接的に影響する多くの議題を議論する。また、状況に応じて、グループの業務に貢献する専門家を招へいする。ヴィースバーデングループには以下の二重の役割があると認識されている。すなわち(a)先進的なレベルの経験や新たな開発の共有、(b)グローバルな会合としての役割である。当グループの活動では、統計システムの開発途上国におけるニーズや関心も考慮する必要がある。

V 議論のポイント

- 33 統計委員会は次の項目について見解を求められる。(invited to express its view)
- (a) 第25回ヴィースバーデングループ会合で報告されたようなグループに関する進捗
 - (b) UNECEのSBRに関するガイドラインに基づく国連ガイドラインの創設についての提案
 - (c) 改定版のヴィースバーデングループのTOR（付託事項）

(本文は以上。以下、別添「改定版のヴィースバーデングループTOR」)

別添 Terms of reference of the Wiesbaden Group on Business Registers ヴィースバーデングループ付託事項

I Background (背景)

1 ビジネスレジスターに関するヴィースバーデングループは国連統計委員会傘下のシティグループの一つである。国連シティグループの精神として各参加者の積極的な貢献に支えられ、SBRの開発・維持・利用に関する知見を共有する場を提供する。ここではSBRに関する概念的及び方法論的な課題やその構築に関する好事例の蓄積等について議論される。ヴィースバーデングループはデータの収集、統合、統計の作成及び公開など、SBRの役割の発展に係る議論を行うことで経済統計に資するSBRの発展を支援する。

2 ヴィースバーデングループは1986年に「ビジネスサーベイフレームに関する国際円卓会議」という名称で設立され、最初の会合は同年にカナダのオタワで開催された。その後、2007年にドイツのヴィースバーデンで行われた第20回会合後に「ビジネスレジスターに関するヴィースバーデングループ」と名称を変更した。名称変更は他の国連シティグループのネーミング方法に倣い、併せて経済統計の作成に向けたバックボーンを提供、統計情報のソースを考慮することなど、その自らの役割も変更された。

II SBRの役割

3 SBRはSBRからの情報に基づく統計の作成、品質の両面において、経済統計の作成に係る中心的な役割を果たす。

4 伝統的にSBRの主な機能は統計調査のフレームやサンプルに資する統計単位の母集団を提供することであった。これは現在もSBRの重要な役割である。一貫性のある高品質な経済統計の作成には適切なカバレッジ及び情報更新が必須の要件である。しかしながら、現在、SBRにはそれ以外に重要なことがある。公的統計の作成において役割が増加している行政記録及びその他の情報の利用、結合である。またSBRは、分析目的やその対象に関する質問への回答にも有用である。加えて、包括的な企業、その他の統計単位、その特性に関する情報に基づき十分に改良されたSBRはそれ自体で統計の作成ができる可能性がある。

5 SBRはデータの収集、結合、プロセス、公開に関する共通基盤を提供することができ、効率的な統計の作成及び一貫した各種統計結果の調整役となる。より効率的かつ統一的な方法での公的統計の作成を目指す政府統計システムの現代化にとっても統一的ツールとしてのSBRが重要である。妥当性及び一貫性があり、詳細でタイムリーな経済統計の作成に高品質のSBR及びレジスターの継続的な更新及び改善が必要である。

III ヴィースバーデングループの業務

6 ヴィースバーデングループでは、データ源、データ結合、カバレッジ、品質、統計単位、SBRの構築・維持、多様な利用といったSBRの構築に係る広範な事項を議論する。

7 適時性も含めたSBRのカバレッジと品質にとって、データ源及び収集方法は大変重要である。これに関連して、ヴィースバーデングループでは統計調査やセンサスの情報、報告者からのオンライン回答、そして多国籍企業グループを含む大規模複合企業のプロファイリングについて議論する。ヴィースバーデングループではまた、SBRの品質とカバレッジの改善及び報告者負担の軽減に資するポテンシャルを有する行政記録などの様々なデータ源の活用についても議論する。グループはデータの共有、

そしてSBRの更新または他の情報源（統計調査又はセンサス）から得た情報の確認に資する行政記録の直接的な利用を促進するため、行政記録管理者との協力体制の構築方法も検討する。これには法的面や秘匿面での課題も含まれる。

8 SBRは理念上、その目的達成のために自国で活動する全ての経済単位をカバーする必要がある。ヴィースバーデングループは、様々な経済部門のカバレッジを改善する方法を議論する。経済のグローバル化、特に、SBRでは多国籍企業グループの活動の測定が特別な課題となる。よって、当グループはグローバル化した活動の適切な測定に向けた国際協力の促進を支援する。

9 SBRの品質は大変重要であり、レジスター統計やGDPにも影響する。ヴィースバーデングループでは関連性、正確性、適時性、定時性、アクセス性、比較可能性、そして一貫性を含むSBRの品質に係る全ての範囲を議論する。当グループでは異なる品質の範囲に関する指標の開発、品質改善、品質評価フレームワーク及び関連するリソースの導入及び費用負担の改善に係る新たなIT及びソフトウェアの利用を含むSBRの品質を測定し、改善するための経験や好事例を共有する。

10 SBRの基礎単位は「統計単位」である。ヴィースバーデングループは事業所、KAU、企業、企業グループといった統計単位の定義や概要、多様な統計単位、経済上の異なる単位の実践的な導入方法を議論する。これには異なるデータ源の記録方法、統計単位の測定方法、プロファイリングそしてSNAとの連携などの議論が含まれる。

11 SBRの構築及び更新は複雑であり、データ収集及び統計調査、センサス及び行政記録を含む異なるデータの結合プロセスが行われる。更新の一環として、バージョンが異なるSBRをユーザーに提供する必要がある。ヴィースバーデングループはSBRの更新及び経済統計作成のバックボーンとしての役割の強化に関する戦略や政策を議論する。これにはアーキテクチャの構築、データ共有や結合方法、分類の利用、産業分類の変更への対応方法、作成過程の一層の効率化に向けたIT及びソフトウェアの利活用方法、経済統計のための統合システムの開発、そしてSBRにおけるメタデータの利用が含まれる。当グループはSBRに関する統計システムの開発途上国における課題についても議論する。

12 SBRを利用することで様々な目的が達せられる。主なユーザーは統計関係者であるが、外部ユーザーも想定される。ヴィースバーデングループでは調査ベースの統計や報告者負担のモニタリングに関し、母集団及び標本フレームを提供する役割について議論する。また、当グループは研究分析目的を含む広範な統計利用に向けたSBRの利用を通して得た情報の公開に関する好事例の共有を促進する。

13 ヴィースバーデングループではSBRから直接作成する統計の発展についても議論する。例えば、ビジネスデモグラフィーがSBRから直接得られるものかもしれない。またはSBRからの情報が行政記録やアントレプレナーシップ（≡起業家）に関する指標を示す他の統計レジスターや緯度経度、地理情報に関する研究などとリンケージが図られるかもしれない。この点において、当グループはデモグラフィーに関する事項（例：企業の開業・廃業）の推計のための類型、方法、その実践に関する課題を議論する。

IV ヴィースバーデングループの目的及び狙い

14 ヴィースバーデングループの目的は、国家統計機関におけるSBRの構築、更新及び改善に関する着実な方法及び好事例の実践を支援することにある。このため、当グループには次の目的がある。

- a) SBRの利用の改善、維持に関する好事例の共有、推奨に関する機会の提供及び共同の取組の支援
- b) 概念上の課題の議論、明確化及びSBRに係る新たな方法及び技術の開発支援

- c) データ収集、結合及び公開に関する共通基盤の提供によるSBRの主要な役割の改善
- d) 経済統計の作成に資する行政記録、他の統計レジスター、統計調査との結合データに関するSBRの役割についての議論及び改善
- e) 国際比較統計へのニーズ拡大及び経済のグローバル化に即したSBRの対応方法の議論
- f) SBRに関する国際的な勧告や好事例の導入支援

15 ヴィースバーデングループでは経済統計に直接的、または間接的に影響する多くの議題を議論する。また、状況に応じて、グループの業務に貢献する専門家を招へいする。

16 ヴィースバーデングループには二重の役割があると認識されている。すなわち(a)先進的なレベルの経験や新たな開発の共有、(b)グローバルな会合としての役割である。当グループの活動では、統計システムの開発途上国におけるニーズや関心も考慮する必要がある。

V ヴィースバーデングループの活動及びアウトプット

17 ヴィースバーデングループの主活動は隔年で実施する会合を組織することである。会合には国家統計機関、国際機関、研究機関のBRに関する専門家が出席する。会合への参加は任意であるが、参加者には議事に関する専門家レベルでの貢献が期待される。

18 1986年から2008年までは年次でヴィースバーデングループ会合が行われた。2008年以降は隔年の開催とした。会合はSBRの開発に係る各国の進捗及び選定された重要なテーマに関する多数のセッションで構成される。レポートはCIRCABCのヴィースバーデングループウェブサイトで公開されている。

19 ヴィースバーデングループには専門家及び研究者などが出席できるが、彼らの考えは必ずしも各国の公的見解を示すものである必要はない。全ての国はヴィースバーデングループの業務に関心を持ち、会合への参加を希望できる。参加者が広範になることで、会合で扱う議題は、結果として広範な地域をカバーする。

20 ヴィースバーデングループの主要な成果は、国別進捗報告を含む、論文やプレゼン資料である。ヴィースバーデングループ会合での報告はSBRの維持、改善及び利用に関する有効な方策及び好事例の推奨について認識することを狙いとする。会合の資料はBRの専門家をターゲットにしているが、SBRの改良プロセスに係る上級管理者にも関係がある。

21 ヴィースバーデングループは2015年にUNECEにおいて承認された「SBRに関するガイドライン」の作成に携わっている。2012年及び2014年のヴィースバーデングループ会合出席者はガイドラインの内容、勧告(recommendations)の決定に貢献している。

22 UNSDが管理しているヴィースバーデングループのウェブサイトにはグループの業務、過去及び今後の会合に関する情報が掲載されている。会合の論文はホスト国及びEurostatのCIRCABCウェブサイトから利用できる。

23 ヴィースバーデングループ会合はUNECE、Eurostat及びOECDが共同で開催する「BRに関する専門家グループ会合」と交互に隔年で開催される。ヴィースバーデングループ会合と専門家グループ会合はお互いに補完している。両会合の密接な業務の調整、重複排除の観点からステアリンググループでは両グループの活動を把握し、アジェンダを整理している。

VI ヴィースバーデングループのステアリンググループ

ステアリンググループのタスク

24 ステアリンググループは、ヴィースバーデングループの業務を先導し、他の関連する統計範囲との調整及び協力を図る。

25 ステアリンググループのタスクは以下のとおりである。

- a) ヴィースバーデングループ会合のセッションの最適化、論文作成要領（CFP）の草稿、発表論文の選定を含むアジェンダに関する事項について次回会合のホスト国を支援する。
- b) ヴィースバーデングループの成果を宣伝、公開する。
- c) SBRの検討事項に関するイニシアチブをとる。
- d) 先を見据え、SBRに関するユーザーニーズや新たな課題、経済統計作成に係る役割を適切に認識する。
- e) UNECR、Eurostat及びOECD共催の「BRに関する専門家グループ会合」を含む、関連する国際機関、組織との調整及び協力を行う。
- f) UNSCへのヴィースバーデングループのレポートを準備する。

26 一般的にヴィースバーデングループ会合のセッション議長はヴィースバーデングループ会合のセッションにおける議論及びその結論の要約の作成を要求され、ホスト国については会合の最終報告書の原稿を作成する責任がある。

27 開発途上国の参加を促進するため、ステアリンググループは地域的な若しくは国際組織からの費用支援の可能性を検討すべきである。

ステアリンググループのメンバーシップ

28 ステアリンググループは国家統計機関、国際機関の専門家及び次のヴィースバーデングループ会合のホスト機関により構成される。2017年現在、オーストリア、フランス、ドイツ、日本、メキシコ、英国、米国（BLS・CBS）、Eurostat、OECD、UNECE、UNSDがステアリンググループのメンバーである。

29 ステアリンググループの議長は一般的には次のヴィースバーデングループ会合の開催国の代表者が務める。

30 ステアリンググループは世界の縮図となる広範な国々での構成を目指す。ステアリンググループに興味がある機関の参加、依頼に基づく参加にオープンである。ステアリンググループは国家統計機関、学術機関及び国際組織から業務プログラムに貢献してもらうために専門家を招へいすることもできる。

以 上